第 15 回 栗東市景観百年審議会の議事概要

１ 開催日時　平成２９年２月２８日（火）　午前１０時から１２時まで

２ 開催場所　栗東市役所　談話室 (庁舎３階)

３ 出席者数　１０名中６名

４ 議　事

１．協議事項

（１）百年先のあなたに手渡す栗東市景観計画の見直しについて

（２）風格都市りっとう景観・緑化啓発プロジェクトについて

２．そ の 他

（１）第二次栗東市緑の基本計画のパブリックコメントの結果報告

５ 議事概要

１．協議事項

（１）百年先のあなたに手渡す栗東市景観計画の見直しについて

○説明概要

・計画の改訂に向けたスケジュールについて説明。

・市民アンケート調査の結果（速報）について説明。

・景観計画見直しの方向性について説明。

・ワークショップ・景観まちづくりセミナーの企画について説明。

○意見概要

（委　員）市の空き家等対策協議会でも、比較的質のいい建物がたくさんあることがわかっており、それを景観上も残していきたい。市の内部でどういった形で連携されているのか確認させていただきたい。

（事務局）都市計画課から、空き家の担当課の会議に出席しています。関係する課から担当をそれぞれ出して、内部会議で色んな検討を重ねているという状況です。

（委　員）景観側からも、情報提供して、双方向で情報のやり取りをしていただきたい。新たに作るのとまた違って、伝統とか歴史とかいうものとも深く関わっていますので、地域としては重要な資源だと思います。

（委　員）住んでおられる方は、そんなに大事なものだと思っていない。褒めないとだめで、農家とか民家とか、ちゃんと拾えば、登録文化財クラスになるようなものがたくさんあると思う。登録文化財は登録したからといって制限を受けるわけではないし、

褒めるだけの話です。箕面でも洋館は登録文化財にしているが、いっぱいある和風の家は認識しない。それが大事なのだということをみんなが思うような働きかけがいる。この中でそんなものを入れていただいたらいいと思う。

（事務局）アンケート調査を見ても、各地域の景観とはどういうものかを、認識していただく必要があると感じています。今後についてはそのあたりの意識付け、明確なこういう景観を目指すのですよと、こういうものがいいのですよというところをきっちり周知・啓発できるような計画策定をしていく必要があると思っています。

（委　員）和中散本舗の辺りを歩かせていただいたが、すごくいい景観が残っていると感じた。いいところに住んでおられても自覚できない。市民の方に気付いていただくそういう取組がやっぱり必要だなと思います。後、安養寺のほうも歩かせていただいて、池がマンションの横にあって、あそこもきれいにすごく整備されていて、蓮が咲いたりとか、すごくいい環境で、市民にとってもくつろげる場所であると思います。そういうところも、ちゃんとアピールすれば、自分たちの憩いの場所として、自覚してもらって、誇りに思ってもらえるような場所ではないかと思います。

（委　員）ヨーロッパでは、いい場所にいい場所を啓発する掲示物がある。いい場所はいい場所でちゃんと市民に褒めて見せてあげる。

（委　員）景観行政が進むというのは、住民の方が景観に対して、意識をしっかりもつということに尽きると思う。気持ちよく過ごせるのは、この景観のおかげということに気が付いてもらうような広報活動が本来もっと力を入れるべきで、それがだんだんと自分の家に対する意識にも繋がっていくと思います。

（委　員）守山市の閻魔堂の公園とかが良いというふうにアンケート出ていますけど、でもそういう大きな公園でなくても街の中にある小さなため池のところでも、楽しめる場所としてあると思うので、そのあたりもちゃんと知っていただくことが大事。

（委　員）文化的な意味合いがある屋敷だと、周囲の方々はそう思っておられても、その屋敷の主人はそこに住んでおられないし、修理も出来ない。他人の家ということで、周囲の人がそういうふうに思っておられてもやりようがない。そういうものをどういう方法で保存するかというのが、大変大切ではないかという感じがします。

（事務局）今の保存の手順にしても、今の行政の財政的な面、それと事情があって、つぶさなければならないとなったとき、新築時の再現の仕方とかについては、これからどこまでどういう支援ができるのかというのは、当然検討していかなければならない内容にもなりますし、住んでいる周辺の方々の景観に対する認知度を高めていただいて、街道筋の部分だけは地区計画でこういうような門構えにしようとか、まとめあげていただくというのも一つの手法にも考えられます。

（委　員）登録文化財にしたら、外壁直したら 60 万ほど出る、そんな町もあります。市の財政も状況によって変わるので、一概ではないが、効率的にできるかは、お金のことは大きいです。

（委　員）例えば今の話で修理のために 5・600 万かかるのだったら、1000 万追い金して、新たにつくろうかと、私はなると思う。

（事務局）アンケートから見ても、あるに越したことはないけど、自らが進んでとなると二の足を踏まれるところがあります。色んな良いところを見ていただいて、自分もしたいなぁというようなところを気付いてもらうということがこれからの景観行政にとっては大事だと思います。

（委　員）景観ワークショップには非常に期待している。これも一度開催してそれでということはないので、継続的にやっていく。長期的な観点で少しずつでも、景観意識をより多くの人にもってもらえるような施策というものが必要と思います。

（委　員）建築の設計をしている人間が何ができるかというと、１つか２つ建てながらちょっとずつその地域の景観を改善していくことです。それを褒めて、みんながそれをするようにしていく。いい街並みが街の中に点在していく。それが集まり、きれいなまちになると思う。小さい街並みをつくる運動があってもいいと思っている。意識付けをして、隣の家と並んで、いい街並みしようとか、そういうのを 100 年続けるとかなり良くなると思っています。

（委　員）小さな街並みで、今五個荘のところに萱葺きをつくった方がいる。中山道沿いの家を買い取って、それで自分たちで屋根を葦葺きに換えて、とても存在感がある。そこだけ少し街並みも残っていて、そういうのがあると、街道が全然違って見える。

（委　員）彦根や大津で古民家をゲストハウスにして、使っているとか、日野町が民泊で有名なところがあるとか、そういうのもあるといいですよね。意外に外国から来られる方は、古いままの方がかえっていいとか、そういう嗜好があるみたいなので、他所から移住してもらうというのもありかなという気がしています。

（委　員）ゲストハウスとして活用するとか、何かしらそういう事業というものにつないでいかないと現実問題として非常に利活用は難しいだろうと思います。人口が減っている中ですから、外からそういった人材を呼び集めてくる。誘致するといったことも今後は必要になってくる。当然単独では出来ないと思うので、そういったところを庁内での調整をしっかりとやっていただきたい。

（委　員）名張では同じような課題があって、そこは大阪から農業で入られた方が、おられて、古い農家を、新しい農業者の住まいにする運動をしている。今のこういう状況の中で、企業で働くのが嫌になって、若い人も農業をやりたいという人もいる。高齢で農業をやめるという方も結構おられると思う。

（委　員）農地とか山林があるから、財産を継続するために家はここに置いておき、お家も立派ですし、帰省時に管理しているというような形です。

（委　員）耕作地はたくさんある。ただそれが、ほとんど使われていない。もしくは、集約的にやっているところもあるかもしれませんけど、現在の農村景観、重要な部分を守っていこうとすると今のままではかなり難しいと、言わざるを得ないと思います。

（委　員）今の論議ですけど、10 年前の立ち上げとほぼ変わらぬ議論をしているということを言いたい。それは、例えば古民家の場合は、固有の所有物なので、行政や周りの人たちが例えそれが正論であったとしても、それを実施することはできない。このまちの変化を止めることはできないということは、この 10 年でよくわかった。そして、古民家が民泊に使われたり、古民家カフェに使われたりするようになったのに、栗東市ではそれが拡がらなかった。なぜそれが実現しないかっていうことを考える。一つは個人のものなのだから、その部分に関しては、諦めよう。色んな人がまちをつくっていくわけですから、古民家を使って面白い展開があるかもしれないけれども、これは本当に人がいてできる。ではこの審議会で話し合うべきことは行政と一緒になって実現できる提案をできたらというのが、聞いていて思ったことです。

（委　員）「百年計画の理念はこのまま置いときましょう」というは私も賛成です。景観計画見直しの方向性で市民に共有するとおっしゃったが、10 年間で市民と共有できてなかったことをもう一回掘り下げないと、10 年後にまた共有できませんでしたということになると、意味がないと思いました。「アンケートの結果やワークショップ等を通して、市全体およびエリア毎の具体的な地域の将来イメージを検討する」、では行政と審議会ができる具体的なものって、何っていうことを話したいと私は思います。百年計画を立てているわけですから、10 段階の 1 段階が終わったというこの上に積みあがったものをもっと感じたい。感じることによって次の段階ができるのではないか、百年見たときに何か実績が欲しいという感じがいたしました。

　例えば、個人のお家をセットバックしたときに、緑化を進めた人に補助金を与えましょうとか、このアンケートをやる費用やワークショップをする費用が整理して、目に見えるものをつくったらどうか。寄せ集めたお金で、街路樹をつくるとか、緑豊かな公園でホテルを隠してしまうとか、木は 10 年経ったらものすごく成長して、目に見えてここにグリーンができたって実感できる。こうしたことでアンケートで 10 年前はこんなでした。10 年後木が伸びて、こんな感じに今なっています。さて、みなさんどうですかというアンケートだったら、よくなったって言ってくれるのではないか。これが百年計画の一歩ではないかと思う。実践をしましょう。

（委　員）「まち歩きをする」これはすごい啓発になると思う。このまち歩きを10年前もされていたのですが、畳み掛けるように、このまち歩きをする。1ヶ月に1回する。舐め回すように栗東市を歩くというような実践。この実践によって、みなさんが景観に目を向け、考えるということになって、また10年後のアンケートでは、こういった評価がもっと市民側から出てくるのではないかなと思っています。この前のまち歩きより今回のまち歩きがよいとか、お薬屋さんとか、旧国道沿いとか歩いて、いい場所がいっぱいあったので、そこのオーナーさんと理解者の人と手を組んで、そこでまち活かしのような、「お茶会する」、「花見をする」、「アートの展示をする」、「演奏会する」そういうまち活かしをちょっとずつでもいいから実践していく。もっと前に進む方策を考えたらいいと思います。

（委　員）住民の意識を高めていく上で、チラシやパンフレットとは違う力を持っているということですね。それと目に見えて現れてくるものこそが、一番PR力があるということも確かなことだと思います。より具体的でなければ、前に進んでいかないのではないかというようなことも、おっしゃる通りだと思う。

まち歩きをして、徹底的に自分たちの住んでいる場所を見て歩くという作業というのは非常に有効だと思うのですけれども、市全体としてやろうと思えば、かなり大掛かりなことになってしまうと思います。

例えば、安養寺のまちづくり協議会は、景観に対しての計画をつくられたということがあるのですけど、それぞれのまちづくり協議会がそのエリアの中での景観というものについて考えてもらう機会をまずもってもらうとか、景観計画つくりませんかという働きかけ、あるいは、そのエリアの中で、まち歩きをしてみて、みんなで自分たちの住んでいる場所を再認識してみようではないかというところから、始められるというのは非常に有効かと思います。実際にまちを歩いてみるというのは、住民の方にとっても新鮮な体験が期待できるのではないかと思う。そこに歩くのであれば、外部の目が入って一緒に歩いて、話をしながらとなれば、ぜんぜん違った見方も出来ると思います。そういうことが、それぞれの地域で積み重ねられていくことで新しいものが生まれてくる可能性はあると思います。

（事務局）第二次でも基本的な方針、方向性は変えないということですので、この10年は何にスポットを当てて取り組むのか、それに対しても色んなご意見、ご指導いただけたら、ありがたいです。ただ、保存に対する支援とか、新築・改修に対する支援といわれると時間がかかるものになりますので、この10年の大きな柱、目標として、まずはここをもう一回初心に戻って積み上げようというところをこの計画で出していければなと思います。

（委　員）経済的な支援については、財政事情もありますので、長期的な取組みの中では、できる、できないということは別にしても、ある程度効果を持たせるためにもそういうようなことを、書き込まれるといいと思います。

（事務局）空き家と耐震と景観と、この 3 つをセットにした支援を考えるというのも一つあるとは思っています。

（委　員）耐震はもちろん、診断に対しては補助金が出ていますし、改修も自治体によってそういう支援もあると思います。空き家でも東近江では、活用する場合については、改修費用半額負担の予算を取られている。年間 2 棟か 3 棟ぐらいからスタートしていこうというような取組みです。着実に目に見えるものとして、積み重ねていくとそれなりの効果が見えてくるし、その見えてくるということは、住民の方もそれに対して意識を持ってもらえるものだと思います。

（委　員）啓蒙は大切ですが、例えば色々な外郭団体、自治会の中にも福祉とか、まちづくり委員とか、そういう人を見守るような立場に立たないと、みんなこれは市役所がやっているというふうになりがちです。啓蒙の場合は、みんなが知ってもらうというのも必要と思います。

　もう一つ、文化財のほうは、後 10 年置いたら、蔵とかはなくなります。みんな壁が落ちて、どうしようかと思っている。自分のお家に少し経済的余裕があれば、そこで置いているだけの話で、もう 10 年経ったらなくなると思います。

（委　員）文化財と景観って一緒にしゃべる方って、あまりにも少ないです。文化財が全てを包含していると思っておられたり、景観の方は国交省の管轄でまた文化財というものがちょっと遠い存在だったりしているのかなという感じがして、ここにも文化財のことって、触れられないことになる。それは行政的に言えば、教育委員会と都市計画課との別個の話になるかもしれないが、きちっと使える制度ってこれだけあるのですよっていう情報提供をできないと使えない。登録文化財ってもっと身近に使えるのですよとか。

（委　員）この景観重要建造物とか、樹木というものが、どんなものなのか制度としてまずはきちっと整えていただくことが大事。どう使うのかは、またわからないということになるので、この 10 年でつぶれる前に仕組みとして出来ることを整えないといけない。

（委　員）市民として大事なのはアイデンティティだと思います。栗東市民として、栗東市民であることに誇りをもつとか、愛着もつとか。多分それが地方自治のスタートだと思う。自分の住んでいるまちに愛着を持てないと、まちは良くならない。アイデンティティは、文化、歴史だと思う。もちろん新しいものもあると思いますが、大きい要素は歴史と文化です。市民意識の中心だと思う。そのかなりのパーセンテージを景観が担っているという位置づけをして、政策の中でも、大事なところとして景観を考える。文化と景観つなげるとか、それは危険なものは必ず手を入れて助けるとか、そういうのも行政の大きな役割だと思う。

（委　員）堂々りっとう景観記念日っていう言葉って、どこかに使われていますか。残すように意識して、働きかけていかないと残らない。そもそも地域を持ち回っているような事業自体が継承されてないのですか。

（事務局）最初、走り出しは地域を順番に回らしてもらっていました。

（委　員）特に景観で優れたと思われる地域を最初選んだわけですけど、今年はここのまちづくり協議会と一緒になって景観を考えてみようというような事業をずっと継続されるっていうのも一つの方法かなと思います。

（委　員）文化と歴史を市民のアイデンティティっていうことを言っていただいた。昔はこうだった、こういう文化があったということは、市民みんなそれぞれもっている。つながりができている。この百年のものと、うまく文化と歴史をミックスしていく。このやり方というのはいいことだと思っている。だからそれをお金で換算するというような考え方をもっと超越したものでないと、文化というのは次元の違う話である。結果のものがお金であって、むしろ文化歴史を語る上にはお金がいる。必然的に考えていかないといけないものだと思います。それは先の投資とともに市政を守る投資なのだというぐらいのものだと思います。

（委　員）一つ小さな提案ですけど、「木津川アート」は、若い人が、公募で空き家とか、古民家とか、神社とかを使った、アートのイベントです。あえて他所から全く知らない人が来て、知らない場所でどんな作品つくろうか考えながらやる、そこに地元の人とのつながりができていく。初めは自分の持ち物を使われることに、すごく地元の人は怖がっているのですが、終わってみると、家の離れを使って欲しいという人がいたら、借りたいとか、井戸と前庭をきれいに守ってくれるのであれば、安くで貸すとか、不動産屋みたいな相談が舞い込んでくる。これは人を通じて、この人だったら相談してみようとか、若い青年たちに使ってもらえたから、楽しかったなとか、いうところから出てくる。そういうことを先に行政がちょっとお見合いのようにやってあげる、そこでまとまらなくてもいい。そこで人と人とをつなぐ何かをつくると付属して、おまけにいいことができてくるっていうのが、ありましたので、そういう仕組みや古民家なんとかいうものを行政が立ち上げるのではなくて、そこに行くであろう人と人との出会いの場をつくる。そういうことを考えていいのではないかと思いました。

（委　員）栗東は空き家バンクをどうしようかというような、具体的な動き出しまで行っていないし、話を聞いていると、より実効性のあるものというのは、そういった場所を舞台にした色んなドラマとか物語の中からのつながりが、貸す人・借りる人・使う人とのつながりが生まれてくるのかなというふうに思います。あえて形式的な空き家バンクよりもずっと効率がいいような気もしますね。

（委　員）もう一つ、農政課から来た若い職員がスタッフになった途端に、農家さんの信用度が全然違った。この人は自分の足で農家さんをずっと回っていた人だったので、この人一人がいたことで、農家さんの反応が全然違う。市役所の一部署ではなくて、色んな要素の部署の人が協力することでこういう景観とか、空き家バンクのようなものは実現すると、いい人材が山ほどいるので、これも利用する手だなと思いました。

（委　員）なかなかそれができないのが行政の内幕ですけど、どうやってやるかということを、考えるというのが与えられた大きな課題と思っています。これは、空き家のほうにも言えることです。

（委　員）ワークショップやセミナーに参加した人たちがどれだけ他の人たちにPRをしていただけるかというあたりもここに盛り込めるといいなというふうにも思っています。手法としてはこんな形で、進められることに個人的にはいいなと思っているのですが、その中に参加している人たちの意識を少しでも景観というものに対して向けていくような仕掛けが盛り込めれば大変ありがたいなと思っています。

（委　員）景観は現地を見るというのが、一番大きい影響があって、それを見てから、地図とか写真とか書き込みしていくと、具体的だし、現地で発見できることがたくさんある。見学会してからワークショップするとか、そんな方が多分有効ではないか。

　それから写真展なんかもやったらいいと思うが、写真がきれいだから、置いているでは、訳がわからない。この写真の中にどういうものが込められているかという説明をちゃんとする。なぜそれを選んだのかという理由があって、この写真の中にこんな意味があるということを、書くわけです。そうすると、とられ方が違うので、知識量が増えると読んだ方もうれしいし、だから景観を眺める上で、その景観の中にどんな意味があるのかということを、わかるようにするっていうのが大事だと思います。

（委　員）今年だけの話ではないので、来年以降もそういったことをぜひ加味して考えていただければと思います。こういう継続的な事業というのは、行政の組織としては難しいところがあるのですが、きちんと申し送るようにしていただければと思います。

　セミナーはある程度形式的になってしまうのはやむを得ないとしても、できるだけ色んな工夫をそこにしていただければと思っております。何よりもセミナー形式でやるのであれば、人を集めることをまず、努力して下さい。より多くの方の興味を引いて、口コミとか、友達に誘われてというのが、一番いいと思うのですけど、特に市役所の若い職員さんが友達を誘って来ていただくというようなことが、もしあると非常にありがたいなと思っております。

（委　員）一つは、今時の方は古い建物に興味がないのだと、本当にそうかもしれないし、そうでもないかもしれないというような部分を掘り起こして、よい事例なんかを見てもらうことができたらと思うのと、それは栗東にも何軒かあるのを知っているので、そういう協力者が得られれば、そういうことをお伝えできたらということです。年代が若い方が来ていただけたらありがたいですし、それの親世帯の方が比較的多いことになってもそれは、それでいいかなというようなことであったり、さっきは行政の方は制度的に整えていますよという部分の説明もいると思いますけども、何も行政が頑張れということではなくて、誰かそういうキーパーソンみたいな人が何人か出てきて、力を出し合えば、それで変わっていくということだと思うので、そういう役割を果たせるプロを何人か集めたい。地元の人にもそういう人がいればつなぎをさせてもらえたら、それのきっかけになったらみたいな話をしていました。

（委　員）目的意識がはっきりしていれば、いいかと思いますので、それに沿った形でぜひとも、有意義なセミナーを開催していただければというふうに思います。

（２）風格都市りっとう景観・緑化啓発プロジェクトについて

〇説明概要

・「りっとう景観図鑑」景観写真等の募集結果について説明。

〇意見概要

（委　員）見ていると天空率が高くていいですね。お家も立派ですし。

（委　員）本当に空がきれいで。「夏雲」なんかを見ましても、これだけビルが建っているのに、空がこんなに広いという、この風景は貴重ですね。

（委　員）「こんたいじ」と読むのですか。これなんか、長浜の鶏足寺にも劣らないような風景ですね。下手に有名になってしまうと、困るかもしれませんけど。

（委　員）ここに瓦があるのですけど、新善光寺さんの本堂です。ちょっと見にくいですけど、天女が乗っている。かなり大きなもので、この天女がいる本堂っていうのは、守山市の東光寺、そこも同じような天女がいて、ずっと探して、ようやくここに行ってあったというのがわかりました。

（委　員）私たち、自分の地域なのですけど、市民が何かまちにある鬼瓦とか紅柄の塀とか共通点を見つけて、それに対して、「まちおもい帖」っていうのですけど、小さい冊子にまとめる。そういうテーマを一つ決めて、後でそれをまとめるという作業まで

もってくると、冊子が並ぶ。本当に10ページくらいのものでも1冊の写真集になります。冊子にすることで落としこめる。そういう撮るだけではなくて、今度それをまとめる、人に見せる。デザインの力とかコーディネートの仕方とかはいるかもしれませんが、もし何回もこれをやられていたら、これこそ積み上げになっていく。その冊子っていうのは、本当に簡易印刷で安くなってきていますから、ある程度予算を組んでいただいたら、30冊とか50冊とかつくる。1つに関して3･4万あればできるわけです。だから、毎年栗東市の中で色んなテーマの本が増えるっていうのは素敵なことだと思います。クリエイターとかデザインとかはちゃんとしたものにする。ちゃんとしたものにすると市民もうれしいし、形になるって大切なことだと思います。

（委　員）富士通が「まち記者養成講座」というのをされていて、子どもたちに写真の撮り方とか文章の書き方とかそういうのを全部セットにして、やっておられると思う。

（委　員）色んな形で企業の方々も協力していただいていると思うのですが、またこういう直接的なプロジェクトにもぜひ参加をしていただけるような、働きかけもできれば、ありがたいなと思います。形で残すことっていうのは、すごく大事だと思いますし、企業にとってもそういうものが残るということは、逆にPRにもつながっていきますし、色んな提案をこちらからしていくということも必要かと思います。企業ばかりではないですが、そういうところも今後は検討していただければと思います。

２．そ の 他

（１）第二次栗東市緑の基本計画のパブリックコメントの結果報告

○説明概要

・パブリックコメントを2月1日から3週間実施し、意見なしであったこと。また最終4月公表に向けて整理、製本等進めていく旨説明。

○意見概要

意見なし

以上